



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	P650 DPI Fuji-Oyama I HN棟	BEE	1.2	BEEランク B+ ★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6 /5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.6
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④耐久性に優れた内装材仕上げ材の採用。 ④耐久性に優れた設備配管の採用。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数	
	2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔		
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出	
3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上		
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)	LR-1 1 ⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
⑦外皮性能の向上。	2 ⑧	自然エネルギー利用	
	3 ⑨	設備システムの高効率化	
	4 4.1 ⑩	モニタリング	
	4.2 ⑩	運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)	LR-2 1 1.1 ⑪	節水	
⑪節水型衛生設備機器の採用。	1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無	
⑪井水利用システムの導入。	1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
⑫照明器具や衛生器具におけるリサイクル材の採用。	2 2.1 2.1.1 ⑫	材料使用量の削減	
⑫躯体と外壁材の分別を容易化。	2.1.2 ⑫	既存建築躯体等の継続使用	
⑬有害物質を含まない材料の採用。	2.1.3 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
⑬環境負荷の小さい発泡断熱材の採用。	2.1.4 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.1.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材	
	2.1.6 ⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
	3 3.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用	
	3.2 3.2.1 ⑬	消火剤	
	3.2.2 ⑬	断熱材	
	3.2.3 ⑬	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 1 ⑭	地球温暖化への配慮	
⑭LCCO2排出率を低減。	2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰受水槽の複数設置や井水利用システムの構築 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能	
	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備	
	2.4.3 ⑰	電気設備	
	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.5
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲余裕のある階高の確保。 ⑲自由度の高い平面計画。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり	
	3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ	
■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1 ㉑	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.9
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) 	Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出	
	2 ⑥	まちなみ景観への配慮	
	3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上	
■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	P650 DPI Fuji-Oyama I HN棟	階数	地上1F
建設地	静岡県駿東郡小山町上野字一沢10	構造	S造
用途地域	用途地域指定無し、防火・準防火地域	平均居住人員	3人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	2020年6月11日
敷地面積	10,824 m ²	作成者	山本悦司
建築面積	4,258 m ²	確認日	
延床面積	2,556 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境 まちなみ 地域性・

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価である。 ・耐久性に優れ維持管理のしやすい空間とすることにより環境品質の向上を目指している。 ・環境にやさしい建材や工法の採用により環境負荷の低減に努めている。		その他 特になし。
Q1 室内環境 評価対象外である。	Q2 サービス性能 仕上げ材や設備配管は耐久性に優れたものを採用している。またゆとりある空間を確保している。	Q3 室外環境(敷地内) 建築物の形態や色彩などに配慮し、また緑地帯を設けて景観が向上するよう努めている。
LR1 エネルギー 外皮の熱性能の向上に努め、LED照明など高効率な設備機器を採用してエネルギー消費の削減を図っている。	LR2 資源・マテリアル 環境負荷の低減のために、井水利用やリサイクル材や有害物質を含まない建材の採用を進めている。	LR3 敷地外環境 周辺の生活環境維持のために、交通対策や光害対策などに配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される